

## 2024年度 安全目標／実施管理表

※計画は、数値化できる場合は件数を入力、できない場合は●や△。結果は、実施:○ 不十分:△ 未実施:×

目標			計画							コメント	
安全目標	達成基準	評価	実施項目 ※重点取組事項は赤字	主催者 (管理責任者)	実施者	対象	実施回数 実施時期	達成基準	評価	コメント	
1 重大事故ゼロ	・コンタミ事故0件	×	◆荷卸しパトロール、モニタリング、チェック								
			①荷卸しパトロール	営業所長	支店安全担当、所長、他	全乗務員	上期中に全員実施実施	荷卸し確認書活用。配管残油絞り徹底。作業手順飛ばし無し	○	全員実施完了	
			②ハイテクログモニタリング	営業所長	所長、他	全乗務員	上期中2回	配管残油絞り徹底。ハイテクログと荷卸し確認書が整合している。チェックしたログ記録を安全管理部へ報告している、COMへも報告している(ログデータは所定場所へ保存)	○	実施率100%	
			③荷卸し確認書モニタリング	営業所長	所長、運行管理者	全乗務員	毎日	荷卸し確認書活用徹底。新荷卸し確認書の運用を理解している	△	荷卸し確認書使用確認の結果が伴わず	
			◆教育訓練								
			①荷卸し訓練	営業所長	支店安全担当、所長	全乗務員	上期中1回	ローリー作業基準に則った荷卸しを実施している	△	実施率90%	
			②荷卸しマニュアル教育	営業所長	支店安全担当、所長、他	白油ローリー乗務員	年1回	荷卸し作業に対する知識を高め、正しい作業の必要性を認識させる	○	実施率100%	
			◆車両、配達先、設備機器適正維持								
			①底弁、各種仕切弁	整備管理者	所長、整備管理者、他	白油ローリー	年1回(4月)		○	実施率100%	
			②隔壁、配管	整備管理者	所長、整備管理者、他	白油ローリー	年1回(4月)	全車両点検し健全性を維持している(点検要項による)	○	実施率100%	
			③ロックピン(ロック板)	整備管理者	所長、整備管理者、他	セミハイテクローリー	年2回(4月、10月)		○	実施率100%	
			④SS荷卸し立会いキャンペーン	営業所長	安全管理部、所長、他	全乗務員	荷主のキャンペーンに参加	荷卸し立会いキャンペーンの参加	○	実施率100%	
2 事故前年比半減	・荷役人身事故0件(休業災害4以上)	○	◆モニタリング、チェック								
			①法令順守確認	営業所長	所長、運行管理者、他	全乗務員	毎日	アルコールチェック違反ゼロ、急加速・急減速、速度超過、件数ゼロ	△	違反者あり	
			②ドラレコモニタリング(走行実態確認)	営業所長	所長、運行管理者、他	全乗務員	年1回	全乗務員安全運行を励行している(点検要領による)	○	実施率100%	
			◆教育訓練								
			①AIドラレコヒヤリハット報告の活用	営業所長	所長、運行管理者、他	全乗務員(AIドラレコ搭載車)	四半期に1度	AIドラレコヒヤリハット報告を営業所長または支店長と確認ができる	△	一部で実施できず	
			②車両移動訓練/車両後退訓練	営業所長	所長、運行管理者、他	全乗務員	年1回	大型車の死角等注意点を理解する。個々の技術や特性を確認させる。コーンの有効利用を認識させる。	△	一部で実施できず	
			◆車両、設備機器適正維持								
			①車両日常点検	整備管理者	乗務員、整備管理者	全車両	毎日	全車両日常点検を実施し健全性を維持している(点検要領による)	○	実施率100%	
			②ドライブレコーダー点検(機器点検)	安全管理部	所長、運行管理者、他	全車両	年4回(4,7,11,12月)	全車両点検を実施し健全性を維持している(点検要領による)	○	実施率100%	
			◆モニタリング、チェック								
3 基礎教育 教育訓練	・追突事故／積込荷卸し作業間違い0件 ・施設内破損事故50%減 ・5年未満の乗務員の事故50%減	○	①乗務員健康状態の確認	安全衛生推進者	所長、運行管理者、他	全乗務員	毎日	健康起因による労働災害0件	○	健康起因による労働災害なし	
			◆教育訓練								
			①荷役人身事故座学習	安全管理部	所長、運行管理者、他	全乗務員	年1回	各営業所で全乗務員が参加している (新人のみの参加とならないよう各グループでの参加とする) 参加後のレポート提出が全員できている	○	各営業所で全乗務員が参加	
			◆モニタリング、チェック								
			②車両日常点検	整備管理者	乗務員、整備管理者	全車両	毎日	全車両日常点検を実施し健全性を維持している(点検要領による) 車両不備による事故ゼロ	○	実施率100%	
			◆教育訓練								
			①ポンプ荷卸し実技訓練	営業所長	所長、運行管理者、他	対象乗務員	年1回	ローリー荷卸し作業マニュアル(ポンプ車)に沿った実地訓練が実施されている	△	一部で実施できず	
			②ポンプ荷卸しによる漏洩事故座学訓練	安全管理部	所長、運行管理者、他	対象乗務員	7月～10月	教育資料に沿った教育が行われている ※ドライバー実地教育時、または個別開催	△	一部で実施できず	
			◆コミュニケーション強化								
			①点呼	運行管理者	運行管理者、補助者	全乗務員	毎日	適性診断をもとにした指導、配達先情報(3Hのリスク)を確認	○	実施出来ている	
4 事故前年比半減	・追突事故／積込荷卸し作業間違い0件 ・施設内破損事故50%減 ・5年未満の乗務員の事故50%減	×	②グループ活動スコアの活用	安全管理部	安全管理部	グループ長	毎月	正しいコミュニケーション状態維持、共通の目的・協働の意志醸成、情報共有	○	実施出来ている	
			③運行管理者研修	社長	社長	運行管理者、補助者	年2回(8月に2回)	点呼執行者のスキル向上を図り、運行管理面から事故根絶を図る(点呼者全員参加)	○	実施出来ている	
			④ヒヤリハット報告の活用	安全管理部	所長、運行管理者、他	全乗務員	毎月	全乗務員がヒヤリハットを継続的に提出している	△	一部で未提出あり	
			◆乗務員管理								
			①安全衛生会議	営業所長	安全管理部、所長、他	全乗務員	毎月	安全教育、事故事例共有、情報共有を通じて、一体となって安全活動を推進する	○	実施出来ている	
			②ドライバー実地教育・支店別管理者勉強会	安全管理部	安全管理部、支店安全担当	全乗務員・所長	7月～10月	トレーラーの死角教育。 乗務員の力量不足・知識不足による事故を撲滅する。 営業所長のスキル向上を図り、指示ミスでの事故根絶を図る	○	実施出来ている	
			③後退時ルールの徹底	安全管理部	所長、運行管理者、他	全乗務員	毎日	後退時の接触事故ゼロ(構内にて停車可能な場合、下車して安全確認を行い、カラーボーンを設置して安全措置を行った上で着車することを徹底する)	△	一部で未提出あり	
			④配達先、配達経路危険情報共有	営業所長	所長、運行管理者、他	所長、運行管理者、乗務員	毎日	配達先、運行経路の情報を収集、更新、配達指示書と台帳へ展開(事故トラブル未然活動)情報伝達不足による事故ゼロ	○	実施出来ている	
			◆コミュニケーション強化								
			①点呼	運行管理者	運行管理者、補助者	全乗務員	毎日	適性診断をもとにした指導、配達先情報(3Hのリスク)を確認	○	実施出来ている	
5 事故前年比半減	・荷役人身事故0件(休業災害4以上)	○	②グループ活動スコアの活用	安全管理部	安全管理部	グループ長	毎月	正しいコミュニケーション状態維持、共通の目的・協働の意志醸成、情報共有	○	実施出来ている	
			③運行管理者研修	社長	社長	運行管理者、補助者	年2回(4月、10月)	会社の一員として守るべき事項を理解する事ができる	○	実施出来ている	
			④グループ長定例会議	安全管理部	グループ長	支店ごとの全グループ長	年4回(4月、5月、6月、7月)	定例会議時にグループ長中心のディスカッションを実施し、各グループ長主体となり毎月50点以上を目指すための意識づけをすることができる	○	実施出来ている	
			⑤国土交通省告示第1366号に準拠した教育	営業所長	所長、運行管理者、他	所長、全乗務員	月1回(安全衛生会議時)	安全運行に必要な知識を持つ(新入社員は教育課程による)	○	実施出来ている	
			⑥初動対応訓練	安全管理部	安全管理部	営業所	年2回	管理者不在時、運行管理者あるいは事務所スタッフが正しい手順で事故対応出来る	○	実施出来ている	
			⑦BCP訓練	BCPプロジェクトチーム	BCPプロジェクトチーム	本部含む全拠点	年1回	実戦に即した災害対策訓練を実施する(実施要領による)	○	実施出来ている	
			⑧異常事象発生時の対応	営業所長	所長、運行管理者、他	本部含む全拠点	発生時、月1回	異常事象発生時の対応が適切であった 安全衛生会議の中で、毎回周知している	○	実施出来ている	
			◆コミュニケーション強化								
			①乗務員点呼立会い	営業所長	所長	所長、点呼執行者、乗務員		乗務員点呼にて、乗務員へ安全メッセージを伝達、安全意識高揚を図る	△	一部で実施できず</	